

腸内環境・細菌研究の 最前線と北陸での展開

アグリ技術シーズセミナーは、農林水産・食品分野で、新たな産学連携を推進するため、最新の研究情報等の発信を行うセミナーです。

今回は「腸内環境・細菌研究の最前線と北陸での展開」をテーマとし、招待講演、シーズ紹介を行い、セミナー終了後には、講師やコーディネーターとの個別相談会も開催します。

参加費は無料です。多数の皆様のご参加をお待ちしております。

日 時：平成29年12月19日（火） 13:30～17:30

会 場：金沢商工会議所会館 研修室1（石川県金沢市尾山町9番13号）

主 催：（公社）農林水産・食品産業技術振興協会（JATAFF）

共 催：石川県食品技術研究者ネットワーク、石川県立大学

申込方法：JATAFFのHPからお申し込みください。

<http://jataff.jp/news/seminar/index.html#hokuriku1219>

申込締切：平成29年12月15日（金）

※当日、会場に余裕がある場合に限り、事前申込なしでのご入場も可能です。

参加
無料

プログラム ※講演の概要は裏面をご覧ください。

司会：新蔵 登喜男 氏（石川県立大学 農林水産省産学連携支援コーディネーター）

【挨拶】（公社）農林水産・食品産業技術振興協会 産学連携事業部 13:30～13:40
事業推進部長 石脇 尚武（農林水産省産学連携支援コーディネーター）
石川県食品技術研究者ネットワーク 会長 三沢 典彦 氏
（石川県立大学産学官連携学術交流センター長 教授）

【シーズ紹介】 座長：長野 隆男 氏（石川県立大学 生物資源環境学部 教授）

1) 「腸内細菌叢異常と肝発癌」 13:40～14:05

飯田 宗穂 氏（金沢大学 医薬保健研究域医学系 助教）

2) 「腸内環境を作用起点とした食品の機能性について」 14:05～14:30

東村 泰希 氏（石川県立大学 生物資源環境学部 食品科学科 助教）

3) 「レジスタントスターチに着目した2型糖尿病予防食品の開発」 14:30～14:55

松本 健司 氏（石川県立大学 生物資源環境学部 食品科学科 准教授）

4) 「日本の発酵食品の腸管および 座長：石脇 尚武（JATAFF）
腸内細菌叢を介する機能性について」 15:10～15:35

辻 典子 氏（産業技術総合研究所 バイオメディカル研究部門 上級主任研究員）

5) 「ヒト腸内常在菌最優勢種のハイスループット培養系の 15:35～16:00
開発とその利用」

栗原 新 氏（石川県立大学 生物資源環境学部 腸内細菌共生機構学講座 准教授）

【招待講演】 座長：三沢 典彦 氏（石川県食品技術研究者ネットワーク）

「日本人の腸内フローラはどのようにして決まり、
今何が起きているのか？」 16:00～17:00

内藤 裕二 氏（京都府立医科大学大学院医学研究科 消化器内科学 准教授）

【個別相談会】 17:00～17:30

共同研究形成等に向けた連携相談、技術相談に講師やコーディネーターが対応致します。

（セミナーにおいて紹介する内容に関するご相談以外にも、農林水産・食品分野の研究に関する
ご相談全般に対応致します）

【シーズ紹介】

①「腸内細菌叢異常と肝発癌」飯田 宗穂 氏（金沢大学 医薬保健研究域医学系）

[発表内容]

肝癌患者の腸内細菌叢の構成は健常者と異なることがメタゲノム解析で判明した。肝癌患者の腸内細菌叢はマウスに移植された場合、健常者の腸内細菌叢に比べ肝発癌を有意に促進することが分かった。

[マッチングの方向性]

◆プロバイオティクス製薬につながる可能性がある

[マッチングを想定する対象]

◆共同研究機関 ◆プロバイオティクス製薬企業

②「腸内環境を作用起点とした食品の機能性について」東村 泰希 氏（石川県立大学 生物資源環境学部）

[発表内容]

多くの研究者と協力し、食品素材が腸管免疫や腸内環境に及ぼす影響を包括的に解析し、新規機能性の創出を目指し研究している。本講演ではその一例として、寒天由来オリゴ糖の機能性について紹介する。

[マッチングの方向性]

◆共同研究相手を見つけない

[マッチングを想定する対象]

◆共同研究機関

③「レジスタントスターチに着目した2型糖尿病予防食品の開発」

松本 健司 氏（石川県立大学 生物資源環境学部）

[発表内容]

レジスタントスターチ（RS）は小腸で分解されにくく、大腸において腸内細菌に資化されて体に有益な短鎖脂肪酸を作り出す作用を有する。本講演ではRSに着目した2型糖尿病予防食品の開発について説明する。

[マッチングの方向性]

◆共同研究相手を見つけない

[マッチングを想定する対象]

◆製造業（食品製造業） ◆農林漁業関係者

④「日本の発酵食品の腸管および腸内細菌叢を介する機能性について」

辻 典子 氏（産業技術総合研究所 バイオメディカル研究部門）

[発表内容]

小腸共生細菌である乳酸菌は特有の抗炎症・免疫賦活メカニズムをもつ。乳酸菌を摂取できる発酵食品は美味しいばかりでなく健康の維持に重要である。さらに免疫機能を介して腸内細菌叢も規定している可能性がある。

[マッチングの方向性]

◆共同研究相手を見つけない ◆研究のための資金提供元を見つけない

[マッチングを想定する対象]

◆共同研究機関 ◆製造業 ◆商社

⑤「ヒト腸内常在菌最優勢種のハイスループット培養系の開発とその利用」

栗原 新 氏（石川県立大学 生物資源環境学部）

[発表内容]

ヒト健康維持に重要な役割を果たしているヒト腸内常在菌の最優勢32種について、共通の培地を用いたハイスループット培養系を開発した。その利用例についても紹介する。

[マッチングの方向性]

◆共同研究相手を見つけない

[マッチングを想定する対象]

◆共同研究機関 ◆製造業（食品製造業等）

【招待講演】

「日本人の腸内フローラはどのようにして決まり、今何が起きているのか？」

内藤 裕二 氏（京都府立医科大学大学院医学研究科 消化器内科学 准教授）

腸内フローラが話題である。フローラとは花畑のことで、一定のグループを作りながらたくさんの種類のお花が咲いている花畑になぞらえて、消化管の中で腸内細菌がグループを作りながら棲みついているため「腸内フローラ」と呼ばれるようになった。ヒトの消化管には100兆個以上の腸内細菌が棲み着くことになり、さらにはライフスタイルがそれら細菌叢の質的・量的変化に影響している。腸内フローラの変化が消化管の病気の原因となっているだけでなく、全身の糖尿病、動脈硬化症、神経精神疾患の発症に影響することが明らかとなりつつある。

【会場へのアクセス】

会 場：金沢商工会議所会館 研修室1（石川県金沢市尾山町9番13号）

TEL：076-263-1151

交 通：金沢駅兼六園口（東口）よりバス（3、8～10番乗場）にて約10分、南町・尾山神社バス停より徒歩2分。

武蔵ヶ辻より金沢ふらっとバス材木ルートにて約6分、商工会議所バス停下車すぐ。

【事務局】（公社）農林水産・食品産業技術振興協会

産学連携事業部 川畑・酒井・佐藤

〒107-0052 東京都港区赤坂1-9-13 三会堂ビル7階

TEL：03-3586-8644 FAX：03-3586-8277

E-mail：renkei-seminar@jataff.jp

